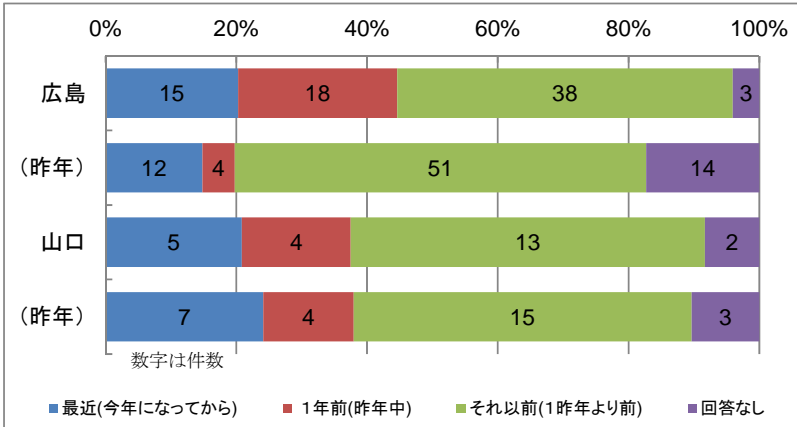


第31回(2015年度)市民活動支援アンケートから

マツダ財団では、みなさまからお寄せいただいた申請書末尾のアンケートを、毎回集計し、当事業の改善や、マツダ財団の運営上の参考にしていきます。前回のアンケートから、その一部をご報告します。

方法 応募者が、申請書末尾のアンケート(A4 1 枚)に記入し、申請書とともに提出。
期間 2014年10月中旬～2015年1月13日

Q1. 当財団の「市民活動支援」については、いつ頃からご存知でしたか



・例年同様、「以前から知っていた(一昨年より前)」が半数以上を占めるものの、今回は**広島県で、「1年以内に知った」団体が少し増えました。**

・これまでご縁のなかった団体様、生まれたばかりの団体様などにもご応募いただけるよう、引き続き丹念な告知活動を心掛けたいと思います。

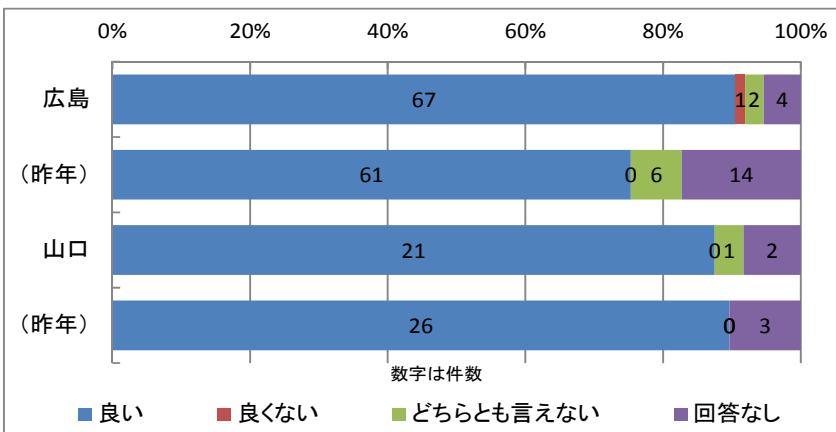
Q2. 当財団「市民活動支援」募集のことをどのようなルートで知りましたか (複数回答)

媒体		広島	山口	計
記事・広告を見て	新聞	2	0	2
	雑誌	0	0	0
	県・市情報誌	8	3	11
	各種要覧	0	0	0
	当財団のチラシ	13	3	16
関係者から聞いて	支援を受けた(ている)人	19	6	25
	当財団の関係者	6	1	7
インターネットを通じて	マツダ財団 HP	33	13	46
	その他の HP	1	0	1
その他	それ以外	20	4	24
計		102	30	132

情報入手ルートの上位は、
1位「マツダ財団 HP」
2位「支援を受けた(ている)人」
3位「それ以外」でした。
「それ以外」の中身は、行政や NPO センターからの紹介などでした。
例年 2 位だった「当財団のチラシ」が後退した一方、皆様は、インターネットで情報を入手されたり、口コミなどで情報を広げて下さっている

様子が分かり、ありがたく思っています。

Q3. 申請手続きについてどのように思われますか。



「良い」が 8 割以上を占めました。

「良い」のポイントは、

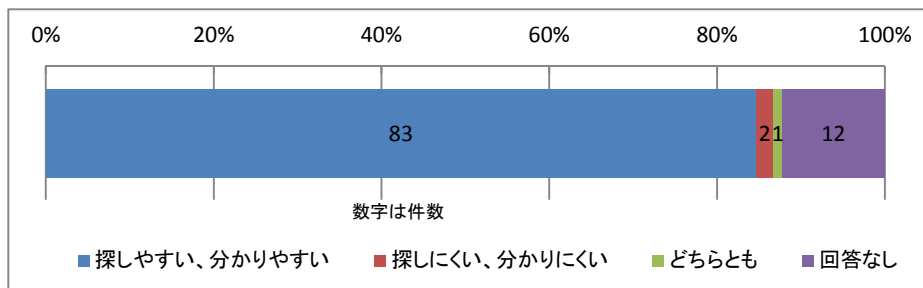
- ①電子申請は迅速・効率的
 - ②申請書の書式が簡潔
 - ③サポート体制(説明会・記入例・問い合わせ対応等)が充実
- などでした。

一方、「良くない」「どちらとも言えない」

い」の理由は、締切期日と申請書の書式に対するご意見でした。

今後も、「良い」ことは続け、頂いたご意見に対しては、しっかり考慮したり改善していきたいと思えます。

Q4. マツダ財団 HP に掲載された申請手続き関連の情報は探しやすかったですか？分かりやすかったですか？



マツダ財団では、募集開始直後の2014年10月24日に、ホームページの全面リニューアルを行ったため、今回、ホームページで関連情報は探しやすかったかどうかをお聞きしました。

「探しやすい、分かりやすい」が8割超と、特に大きな問題はないようでした。

Q5. 市民活動支援の内容や進め方、今後取り組むべき課題などについてのご意見(自由記入形式)

市民活動支援の内容や進め方等について、自由記入形式でご意見を頂いたところ、「こんな分野も支援してほしい」「(我々の団体は)こんな課題を抱えている」といったお声を寄せて頂きました。その一部をご紹介します。マツダ財団では、このようなみなさまのご意見を、事業に反映していくために、参考にさせていただいております。

「こんな分野も支援してほしい」

今回は、「地方の活性化」と子どもや若者との関係に言及したものが多く見られました。

分類	ご意見
地方の活性化と子ども・若者との関係	<p>東日本大震災、広島土砂災害を経験し、青少年の社会貢献意識や自主性は非常に高くなっています。一方で地方の衰退はとどまることを知らず、耕作放棄地は増え、限界集落から消滅集落になってしまうところもあります。災害時にもっとも機能するのは地域のコミュニティなのですが、コミュニティそのものが消滅に向かう。広島県内市町の20～39歳の女性人口は40年後すべてマイナスになると推計(神石高原町はマイナス74.5%)されています。地方の若者を元気にし、本当の意味で地方を創生するため、息の長い活動や支援が必要だと思います。</p> <p>子どもたちの自然体験と、過疎の問題を、どう組み合わせ、楽しみながら解決への糸口を見つけれられるか、という点は、これから大事な視点になってくるように感じています。</p> <p>大都市と違い、地方都市での市民活動に対する支援が先細りになりつつあることを感じる。また全国組織と連動しながら動いているが、地域間格差が非常に大きいのを身にしみている。地方都市の活性化につなげるためにも、今後も継続的かつ大きな支援をお願いしたい。</p> <p>グローバル化、小学校低学年から本格化する英語教育、地域創生、ロボット化による職場の変化、特にインターネットの更なる普及進展によるネクストワールドの到来、世の中は、全く想像できないほど進化しています。このような状況の中において、過去の歴史や文化財の価値や維持も困難となりつつあります。特に少子高齢化の中で、地域をいかに創生していくか大きな課題が存在します。これらの課題に取り組むにあたり、マツダ財団の支援活動は、地域の住民にとって未来を生きる意識の醸成にもつながっていくものと考えます。</p>
マイノリティ・弱者	<p>人の幸せと、科学の進歩がどのように係るのが、はっきりしていないと思う。科学の進歩は急速であるが、人の考え方、生き方の基本である倫理性は、進歩と言うよりは後退しているように思われる。科学の進歩に、人が幸せと考える基本の倫理感が追い付いていない。それで、自分の都合の悪いことは排除し、都合の良いことを追い求める傾向がある。しかし、都合の悪いことが、人の絆を深め、お互いの連帯を深めることが多くある。自分の都合の良いことを追い求めることで、生き方の幅を狭め、生きにくくしている。そのような例の一つとしてマイノリティの生きる姿をもっと人々に知ってほしい。</p>

(続き)マイノリティ・弱者	経済弱者(高齢者・ひとり親家庭・障がい者) に対する支援活動にも注目していただけると有難いです。
子ども会 地域での子育て	地域では、 子ども会が消えて 行っています。自主性を育てるよりも、やらされる会になっているからです。地域の小さな活動にも目が向けられればと思います。 地域のコミュニティも縦横の連携を強化し、 地域で子供を見守り、育てて行く 必要があると強く思います。
継続することに 意味がある活動	こういった支援が有ることはとても有り難いことです。感謝していますが、私どもの活動は 継続することに大きな意味があり 、青少年の非行を食い止める命綱とも言えます。右か左かのぎりぎりのラインの子ども達を支える活動をしています。そのことを深くご理解いただければありがたいと思います。 「市民活動支援」は、 継続していくことに意義がある 。それを実現していくには財源が必要となり、財源の確保が重要な課題となるのではないかと。
発達障がい児 (の学習支援)	「わが子のために何かしてやりたい」と思っているお母さんたちは多いのですが、なかなか自発的には難しく、何かきっかけが必要だと感じます。障がい児の家庭は地域の中でも孤立している傾向にあり、少しでも多く地域と交流できる場を増やしその家族を支援していくよう取り組んでいきたいと思っています。また、 発達障がい児に対する学習支援 がまだまだ不足しているように感じます。学校での支援も不十分で通級制度も充実していません。教育現場だけに頼らず、地域でもっと支援できないかと悩ましく思っています。
交通、まちづくり	御社は大手 自動車メーカー として、欧米の道路事情、交通まちづくり、自転車と自動車の共存等について、多くの知見や情報をもっておられると思います。そうした観点から、山口県や広島県における 持続可能な交通まちづくりや交通安全 、自転車利用促進に関わる市民活動や青少年育成の活動をよりいっそう、支援頂きたいと強く願っています。
自然体験	これからの未来を背負う子供たち、柔軟な心と体を養うためにも子供が 自然と触れ合う活動 を取り組んでいただきたいです。
青少年以外	青少年に力点を置かれていますが、 一般の事業についても助成を積極的に 行って欲しい。

「団体の抱える課題」

今回は、後継者問題や資金問題が多く挙がりました。

分類	ご意見
会員減少 後継者育成	地域の活動に参加して思いますが、社会福祉協議会や町内会などの地域活動団体は高齢化が進み60代以下の世代がほとんど参加しない状況です。若い世代を積極的に育成していないと、大変なことになると私達は話しています。 若い世代の育成 に目を向けて頂きたいと思います。 参加者も徐々に高齢化しており、活動を継続していくためにも、 今後の後継者づくり が大きな課題となっています。
資金面	自立できるような経済的基盤 がいつまでも満足できていません。定性的な業務たとえばコミュニティビジネスのようなものができる 若者の雇用も できるのですが、悩みの種となっています 自己資金確保 の方法として、新規会員獲得のために定期的に活動の様子などを会報などで広く広報活動し、成果物の販売、祭りやイベントなどで遊休品や飲食品の販売などに力を入れていますが、なかなか難しい面もあり...(略) 過疎地域における、青少年育成支援活動は何より 財源難に直面 します。青少年がこのような活動を通して、郷土に対する理解を深め、そして郷土愛が醸成され、それによって将来この地域を支えてくれるような人材へと育てるためにも、活動資金を何とか確保したいと願っています。 社会活動をしていこうと思うと、 資金繰りに困る ことが多い中、社会活動はボランティアでなければならぬといった偏った考え方がまだ日本に残っているため、活動資金を集めることが困難な状況があります。そのため、団体役員はどうしても身銭を切って活動することになり、活動を続けていくことが難しくなるため、まずは人々の社会活動に対する考え方を変えていく必要があると思われます。ボランティアであっても活動資金が必要であることや、人を雇用するには賃金の支払が出てくること等の 理解ある応援者を増やしていく必要 を感じています。 行政からの新たな支援も難しく 、このような市民活動支援がもっと拡大されることを期待します。

(続き)資金面	市民活動では、こういった 資金面で苦勞 しております。活動内容に応じて、各種の助成金に応募して活動を継続しています。
	小規模な団体においては、一番の課題は活動資金です。資金面の支援は活動の充実につながりません。特に活動を始める時の 活動立ち上げ支援 は更なる充実を希望します。
	基本的には常にお金をどのように準備し、運営できるかかと思っています。 市民と公が金銭的にもよい形で連携し、単に寄付だとかボランティアという形以外の運営の仕方を見いだしていく必要があるか と思います。

Q6. その他、当財団に対してご意見、ご要望等があれば

マツダ財団に対するご意見、ご要望について、自由記入形式でお寄せいただきました。その一部をご紹介します。決定時期の前倒しを…というご要望については、「締切をできるだけ遅く、審査・選考・決定手続きをできるだけ短縮」するよう配慮しております。また、「スキル育成への支援があればありがたい」、「団体間の連携・交流の機会を提供してほしい」といった建設的なご提案も寄せいただきました。これらについては、マツダ財団の交流会や贈呈式など、みなさまの集まる場を、うまく使っていきたいと思っています。

分類	ご意見
決定時期の前倒しを	かなり厚かましいお願いですが、 新年度が始まる1ヶ月前くらいに、助成が決定していれば 活動の受け入れ機関との調整が円滑に進むのですが、厚かましくてすみません。 落選した場合は新たな次年度予算を組みなおす必要があるため、 交付決定の時期をもう少し早めて欲しい。
情報開示を	(採択された団体が活動後に提出する)実施報告書において、費用明細の提出が義務付けられていないが、活動の成果、助成金の至当は明確にすべきではないかと思えます。 採用が中々難しいとは思いますが、 財団としての採用条件及び審査基準 はどのようになっているのでしょうか？
PRを	マツダ財団がこのような支援活動に取り組まれていることを、 山口県ではあまり知られていない ような気がします。もっと、広報して技術や研究支援だけでなく、青少年活動や次世代を担う子どもたちの応援等さまざまな地域貢献されていることや支援した内容をPRしてください。
マツダの協力を	マツダの社員の方からも参加のご協力を頂けるような活動 になればうれしいです。 マツダ財団に関連する 企業、社員、OBなどを活動の指導者、講師として派遣して頂けると 有難い。また、マツダの工場、博物館などの見学はさせて頂きましたが、 関連企業の見学の門戸も開いて頂きたい。
団体間の連携・交流を	マツダ財団贈呈式のパーティにおいて、いろいろな市民団体と交流できる取り組みは大変素晴らしいと思います。そのような場等をきっかけに、 市民団体同士がいろいろなマッチングができる環境を、今以上に工夫して頂ける取り組みを 期待しています。 市民活動は、横の連携が弱いのではないかとおもいます。 類似の団体が連携できるようにコーディネート していただくような機会があればうれしいです。 急激な高齢化が進む中、いわゆる団塊の世代が、後世に引継ぐものが多い。NPOなども、同様な中で、 NPO同志の協働化を進める必要がある 。加え、縦割り行政に固執しない仕組みを考える必要がある。 ソーシャルキャピタルということで、 いろいろな団体と手を取り合って市民活動を行うべきだ と思いますが、行政が縦割りで、横のつながりがなく、これは教育委員会、あれは福祉課など担当が違うなどと、仕事の分担が限られていてその連携がうまくいかない。行政の取り組みへの しゅきみ が改善されるとよい。
スキル育成の支援を	助成金ありきで活動を進めると、助成金とれなくなったときに活動が継続できなくなるという不安を抱く団体が少なくない。資金のうまい活用法などを進める団体などが過去にいたら、講座などする機会を設けていただくなどして、 団体を育成するようなことにも力を貸して いただけたら嬉しい。

簡単に取り入れられるご意見から、すぐには対応することが難しいご意見もありますが、少しずつ、できるだけ反映していくこと、そして、長期的なビジョンも見据えながら私どもの市民活動支援のプログラムを一步一步進化させていくことを、心掛けて参ります。

貴重なご意見をありがとうございました！

以上